



怪僧・了海 ①

地域史研究者
三善貞司

宗教界の異端児

日蓮宗を罵倒する論争好きの了海

「怪僧」と書くと叱られそうですが、了海和尚はまさしく怪僧の代表にちがいありません。なお怪僧の怪は妖怪の怪ではなく、「なみはずれてふしぎな」の意味です。怪力の怪です。

紀海音の浄瑠璃「新百人一首」に、ある商家の主人が阿弥陀池（西区北堀江3丁目・和光寺のこと）の境内で了海の法話があると聞き、「あのくそ坊主め、嘘ばかりつきやがって。よし、わしがこらしめてやろう」と息まいて出かけますが、説法を聴いて大感激。店にとんで帰り従業員や家族たちに、「あの方は生き仏さまや。すぐに行ってお前らも有難いお話を聴いてこい」と命じるくだりがあります。

その海音のライバル近松門左衛門も名作「心中宵庚申」（お千代・半兵衛の仲睦まじい夫婦が、姑の嫁いびりにあって心中する内容）で、最後に夫婦が心中する場所を生玉馬場（天王寺区生玉町。今の「生玉公園」のあたり）にしています。了海和尚衆生済度（人々の苦しみを仏の力でやわらげること）の説法此処にて始めし所」と、死に場所に選んだ理由を解説しています。

海音も門左衛門も、歌舞伎や浄瑠璃の脚本の背景に、時代の流行をとりいれるのが巧みな劇作家でした。その大御所二人がともに了海にふれたということは、彼がどれほど大坂の人たちに受けていたかの証になります。

「老若男女貴賤を問はず声望大」と記されている了海の説法は、まことに異様でした。

『武野俗談』という古書に、

「大坂の了海坊真長の談義は奇怪千万で、すべて法華經、日蓮宗に対する誹謗（他人の悪口を言うこと）であった。談義のおりは高座に日蓮と称する人形をあげ、悪口雑言をばきながら、人形を打擲（なぐる）するがまんのできぬ低級な悪僧だ。ために彼が死ぬときは骸が6畳いっぱいに広がり、頭は八つに分裂し、腫れあがっていたそうだ。経文や釈書（お経の注釈）にはいっさいふれず、ただ地口（同音の発音の言葉をもじった駄洒落）や軽口（ここでは大坂ではやった身ぶりを真似たり声色を使ったりして笑わせる大道芸）を用いて面白おかしく語り、世の人々をたぶらかすのみ」

との内容が記されています。

人気があればかならず敵意を抱く者も現れます。『武野俗談』の著者もそうかも知れませんが、

「了海」は日蓮人形を荒なわで縛りあげ、市中をひきずり廻りながら、卑猥（ひやうい）（下品で淫らなこと）な俗謡や替歌（かえうた）を歌い、「この餓鬼（がき）」と罵（ののし）って竹杖で人形をたたくから子供たちは大喜び、なかにはついて歩いたり、了海（ごう）ごっこをして遊ぶ悪童もいた」との伝承も残っています。

さて怪僧了海とはどんな人物でしょうか。

信頼できる資料はあまりないのですが、彼は寛文2年（1662）武州（東京都・埼玉県の大半）の貧しい農家に生まれました。同11年9つで出家。了公という僧侶の弟子になります。あまり学問はしませんが、風変わりな性格でとりわけ論争が大好き、それも相手が降参するまで殴られても蹴られてもひるまず、くらいつきますから、兄弟子どころか師僧まで手を焼きます。同僚との折りあいも悪い。いつものけものにされますから面白いはずはない。とうとう自分から寺をとびだしました。

そんな彼が日蓮宗を憎むようになったのは、20代の後半に日蓮宗徒に論争を挑んで、学識不足のためやりこめられたからだと言えます。日蓮宗は安房（あわ）（千葉県）の僧蓮房が仏教の真髓（しんずい）は法華経にあると考え、建長5年（1253）日蓮と名を改め、南無妙法蓮華経の題目を唱えながら、念仏宗や禅宗の説破行動に出たのに始まります。

日蓮は市中に立ち、辻説法をくり返して日蓮宗を広めました。当然他宗派を邪宗として攻撃しますから、他宗も黙ってはおられない。激しい論戦となりますが、たいていは言い負かされる。あらゆる迫害に耐え、他宗を説破して法華経を広めるのが色説（しきせつ）（経文を真に理解する方法）だとする日蓮の教えは、たちまち火災のように燃えあがり、日蓮宗に転宗する信者が増加して、宗教界は大混乱におちいりました。

とくに浄土宗と日蓮宗は仲が悪い。天正7年（1679）「安土宗論」はその代表です。日蓮宗と浄土宗の争いに手を焼いた織田信長は、安土城下の厳浄院で、日蓮宗の日諦（にってい）・日瀨らと浄土宗の貞安・玉念らに論争をさせます。判者は南禅寺や法隆寺の僧が勤めますが大激論となり、容易には優劣がきまらないのに信長の合図で浄土宗側の勝ちと判定し、日諦らは投獄、信長領地内の日蓮宗寺院は破却、京都からも有力な信徒千人が追放という重い刑罰を受けました。もちろん日蓮宗の勢いをそぐために、信長の仕組んだわなです。

こんな歴史もあつて日蓮宗と浄土宗は犬猿の仲です。論争大好きの了海は、日蓮宗徒に鼻をへし折られ、怨念の塊りとなったのです。

了海 1662年武州出身の僧。カリスマ性の強い言動は近松門左衛門らの「心中宵度」にも登場する。1714年の大阪の飢饉での施米活動は有名。1719年57歳没。

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

（株）ファッションビジネス・御堂筋新聞